

2017年
8月号

カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「いつくしみから踏み出す第一歩」

No. 0060

小教区今年度のテーマ…「やってみよう 私にできることを」

五月病を乗り越える為に



主任司祭 遠山満

皆さん、暑中お見舞い申し上げます。8月の熱い最中に、何故、五月病のことを、主任司祭は書くのだろうか、皆さん、怪訝に思われるかもしれませんが、私が、このことを書こうと思い立ったのは、先日、松尾神父様の初ミサの時、「五月病」という言葉を、久しぶりに耳にしたからです。「神父様は、五月病には罹られなかったでしょうか」と、松尾神父様に質問がなされていました。ウィキペディアには、「新人社員や大学の新生や社会人などに見られる、新しい環境に適応できないことに起因する精神的な症状の総称」と書かれています。

私は、「五月病」という言葉を聞いて、自分が大学に入学した当時のことを思い出しました。私は、余りにも楽しい高校時代を過ごしました所為だったかもしれませんが、予備校生生活を1年間過ごしました。その一年は、競馬馬のごとく、正面だけを向いて、大学入学というゴールへ向けて、ひたすら走りました。ゴールの後、これからも皆と一緒に勉学に勤しもうと思っていて私の思いは揺らいでしまいました。何故なら、ゴールインした途端、私の周囲の仲間たちは、それぞれ部活や、友達作り、サークル活動などに邁進し始めたからです。私は、その時初めて、自分は何故、大学に入学したのだろう、人生の目的は何なのだろうと考え始めました。

五木寛之は、「人生の目的は、「自分の人生の目的」を探ることである」と言っています。つまり、人生の目的を探し続けることが、私たちの人生の目的であると言うのです。私たちは、人生の目的、生きる意味について、イエス様が教えてくださっています。その事に何よりも感謝したいと思います。

人生の目的、生きる意味が見いだせないなら、たとえ人生の短期的な目標、例えば、受験や就職などで成功を収めていったとしても、その後、いつか生きる意味を見失ってしまうに違いありません。何故なら、人生は順風満帆の時ばかりではないからです。私達大人は、その点で、子供たちが、人生の短期的な目標を掲げ、成し遂げるのを助けるとともに、人生の長期的な目標をも持つことができるように、手助けして参りましょう。その為には、私達が、まず何よりも、人生の目標を見失わないようにすることが大切です。

大リーグで、レンジャーズからドジャーズにトレードされたダルビッシュも、五月病に罹ることなく活躍して欲しいと思います。

カトリック笹丘教会 役員会議事録（抜粋）

開催日時：2017年7月22日（土）16：00～18：00 開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、辻部、前田（美）、菅、畠山、川原（圭）、牧山

欠席者：前田（史）、松尾 司会：川原 書記：牧山

1. 小教区目標の具体的取り組みについて

- ・教会を離れている方々にお便りを出すための資金協力として、古い年賀ハガキや書き損じハガキ、未使用切手の提供を呼びかける。中にはお便りを送って欲しくないという方もいると思うので、レジオの協力で対象者リストを作ってもらいと有難い。教会から誕生日カードを送っているが、宛先不明で戻ってくる方がいるので、その追跡調査も必要。
- ・バザーやアウグスチノ祭などに誘い、名札を付けるようにし、教会行事を通してお互いに知り合うことができるようにする。
- ・小教区で終活セミナーを企画してはどうか。
- ・教会行事の企画・運営を若者に任せる。その場合に、若者が負担に思わないようにすることが大切。

2. 松尾神父様叙階記念誌作成について

- ・叙階式に参加できなかった人たちのためにも記念誌を作成する。
- ・内容は、両親の言葉、神父様からのお祝いメッセージ、写真など。

3. アウグスチノ祭について

- ・8/26（土）のミサを1時間繰り上げて18時からとし、ミサ後にホールで行う。
- ・会費：大学生以上500円
- ・招待状作成担当（畠山）。参加申し込み用紙を用意し、大人と子供の参加人数を記入してもらうようにする。

4. その他

（1）メンテナンス委員会設置

教会建設の借入金返済のめどが立ちそうだが、中・長期的な修繕計画と予算を検討するための委員会を設置し、積み立てについて考える必要があるのではないか。

（2）災害支援

8/6から8月一杯募金箱を設置し、協力を呼びかける。



信仰のルーツ コーナー

「私の信仰のルーツ」



わたしの両親はキリスト教ではありませんでした。母は女学校を出て、大阪の商社でタイピストとして勤めていた頃、仕事のための生活は何か味気なく、周りには仕事以外のところでは遊んでばかりいる人が多く、あまり馴染めない中で、何かを求めていたようです。たまたま職場近くにカトリック教会があったので通っているうちに、公教要理の勉強をし、洗礼を受けることとなりました。レジオの活動もしていたそうです。

父と母は職場で出会い、母は結婚する際に子供たちにも洗礼を受けさせることや教会で結婚式を挙げることを父に納得させ、結婚に至りました。父は金沢市出身で家は代々浄土真宗、未だに未受洗のままですが、父の理解もあり、後に4歳上の兄と私は幼児洗礼を受けることになりました。

父は毎週日曜日、私たちを教会に車で連れて行ってくれ、自分だけ家に帰り、ミサの終わる頃にはきっちり迎えに来る、といった人でした。母の中にも父に対する遠慮があり、ミサの後はそのそくさと帰るといった状況でした。私は他の子供たちのように土曜学校やミサ後の活動に十分参加できず、教会で友達も少なかったのがとても残念でした。今、教会学校でお手伝いさせていただいているのも、教会に行けばそこにも友達がいて楽しいということが、すごく大切なことだ感じていたからだと思います。

兄は中学生になったころから教会からは遠のいていましたが、私は教会が大好きで、なるべくミサは休みたくありませんでした。そんな私が東京のカトリック系の大学に通うことになりました。公立出身の私が経験したことのないくらいたくさん同世代の信者の友達に出会うこととなりました。その中の一人が今の夫となる人でした。

主人との出会いから結婚までも全てが順調に進んだということは全くなく、衝突の連続でしたが、衝突のなかでも一緒に祈ることができたのが、私たちの人生の宝だと感じています。

結婚して福岡で暮らすことになりました。私たちの実家は関西、関東と遠く離れていて私には頼れる人は主人のみという状況でしたが、主人の職場のご家族や新婚当初から通わせていただいている笹丘教会の皆様のおかげで少しも寂しいこともなく子育てもできました。

人生の中でいろんな苦しみもありましたし、これからはあると思いますが、一緒に祈る共同体があるというのは本当に恵みだと思います。

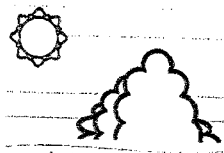
我が子も皆成人し、それぞれの道を歩き出しています。もうお弁当を作ってあげることや世話を焼くこともできず、本当に多少のアドバイス以外は折ってあげるしか出来ません。しかし同じ気持ちで私たちの両親も遠く巣立った私たちのことを折ってくれていたんだと感じるこの頃です。

教会に行けばそこに友達がいる、結果的にそういう状況が私たち家族を育ててくれました。

笹丘教会の皆様これからもどうぞよろしく願いいたします。私たちもいつも共同体の皆様のために祈っていきたいと思います。

(E.F)

編集後記



もう聞きたくもない言葉でしょうが・・・「暑いですね。」

年々夏が暑くなって、異常気象も多くなっているような気がする。昔は32度で相当暑いと感じていたと思うのだが。

家の裏に物干し場を作る工事をこの2か月間ほどしていた。大工さんや左官さんが炎天下真っ黒になりながら汗だくで働いてくださる中、クーラーの効いた室内にいたことが申し訳ない気持ちになった。

豪雨被害にあった地域の後始末をされてる方々はこの暑さに加えて、悲しみや不安や疲れも堆積していることだろう。どうぞ体も心も神様に守られますように――。

テレビの街頭インタビューで「家中のコンセントを使わない時には抜いている」と、イマドキの若い女性が喋っていた。

「だってエコじゃん、地球温暖化しちゃダメだから」。

その子がとても偉く見えた。

(F.K)